

★チャレンジ!夢に向かって★

～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

大仙市教育委員会の学校訪問から・・・

7月9日（火）に大仙市教育委員会の嵯峨康弘教育アドバイザーと福原昭信教育アドバイザーによる学校訪問が行われました。また、7月12日（金）には大仙市教育委員会の伊藤雅己教育長、中島康教育委員、そして大仙市教育委員会事務局の職員による学校訪問が行われました。両日ともに授業に取り組む子どもたちや先生方の様子を参観いただき、学校での取組や課題について意見交換を行いました。授業については、生き生きと学ぶ子どもたちの姿が見られ、本校のこれまでの取り組みの成果が現れているとの講評をいただきました。また、複式学級の指導の在り方については、高評価をいただきました。特に心に残ったのが、嵯峨康弘教育アドバイザーからの「教室に30人くらいの子もたちがいるような授業が行われていた」という講評です。日頃から、子ども一人一人の学習活動が保証され、



本校の先生方が子どもたちとよりよく関わり、温かい集団づくりに力を入れていることの表れであると感じました。限られた時間でしたが、子どもたちの様子だけでなく、教室や廊下の環境等もいろいろな視点から見ていただくことができました。

今後も子どもたちのさらなる成長のため、大仙市教育委員会と学校が連携しながら教育活動を推進していきたいと考えています。

さて、2日間の学校訪問を通して、本校でこれから特に力を入れて取り組んでいかなければならないと感じたことがあります。それは「公私の場をわきまえる」ということです。例えば、授業中の教室というのは、学ぶ目的を持った人が集まる「公的な場」です。つまり、休み時間や家での生活とは違う場であるということです。自由勝手に振る舞っていい場ではありません。意見を述べる時も、座ったまま思いついたこと「つぶやく」というのは、授業が「公的な場」であるということから考えるとふさわしいとはいえません。このように授業を通して社会性（社会に出て生きて働く力）を身に付けさせることに、今後より一層力を入れて取り組んでいきたいと考えています。こうして授業で身に付けた力が、全校音楽劇というより「公的な場」での表現につながっていくと思います。ただし、これは一朝一夕で身に付くものではありません。根気強い指導が必要になります。御家庭でも学校と同じ歩調でお子さんを励ましてくださればと思います。